

『講左衛門さん、今年はとても暑いでまっすん。けれども、連日忍野八海には、観光客が多く来てくれているでまっすん。忍野八海の魅力を感じて帰ってくれているのか、心配でまっすん。今日は4番霊場銚子池の紹介でまっすん。気合を入れて紹介してほしいでまっすん。』

『そうじゃな。忍野八海の歴史や神秘を分かってほしいのう。さて、銚子池は他の池と違って伝説が残されておるんじゃ。その伝説が和歌に詠われておるのじゃ。紹介しよう。』

東叡山御免 4番霊場 銚子池 和脩吉(バースキ)龍王

くめばこそ 銚子の池の さわぐらん もとより水に なみのある川

意味 花嫁の悲しい心を包むかのように静かに湛えている、この銚子の池水を汲もうとすると、一際水面がざわめく。もとより花嫁のふるえ悲しむ心を映すかのように、いつもさざ波が立って流れる川のような。

4番霊場 和脩吉(バースキ)龍王

「和脩吉」とは、サンスクリット語で「寶」または「九頭」という意味で、この竜王は九頭を持っていて、妙高を繞って(高い山をめぐって)小悪をなす細龍を食し、人々の災難を除く竜王です。

『講左衛門さん、和歌に詠われている花嫁の悲しい心とは、どのようなことでまっすん。』

『言伝えによるとな、「婚礼の日着飾った花嫁が、お酌に廻るうち、床板がきしみかすかな音をたてた。それを*方屁と勘違いされて恥ずかしく、そのまま近くの池に身を投げた。」池のさざ波を、銚子を持って身投げした花嫁の嘆き悲しむ心に重ねて、詠んだ和歌になっておるんじゃよ。』 『悲しい話でまっすん。銚子池を巡るときは、この話を思い出すでまっすん。』

『忍野八海を巡るときには、竜王の名前とその守護と、和歌の意味をかみしめてほしいのう。』

『そうでまっすん。忍野八海の和歌や竜王の話は、これからも語り継いでいかななくてははいけな

いでまっすん。それが、おいらの仕事でまっすん。』

『そうじゃ、今しっかり伝えなくては、忘れられてしまうからのう。』

『次回は、第5番霊場湧池でまっすん。忍野八海の中でも、とっても大切な池でまっすん。気合が入るでまっすん。』

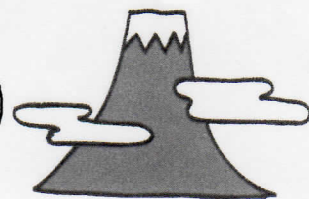


クニマッスン

出生地 忍野村

山梨県水産技術センター

□癖 でまっすん..



ふじのだいがこうざえもん
富士大我講左衛門 年齢不詳
職業 大我講の先達
(先達とは富士山案内責任者)

※方屁(ほうひ) おならの事

『講左衛門通信』は、
第2・第4日曜日に発行予定